

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 5日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21592801

研究課題名（和文）

発達障害の幼児を育てる家族への予防的育児支援プログラムの介入効果の検証

研究課題名（英文）Effect of the program for mothers of children with Autism Spectrum Disorder to prevent impaired parenting and dysfunctional family processes

研究代表者

浅野 みどり (ASANO MIDORI)

名古屋大学・医学部保健学科・教授

研究者番号：30257604

研究成果の概要（和文）：

【目的】広汎性発達障害(PDD)の子どもをもつ母親は、見えにくい障害特性から様々な育児ストレスを抱えている。母親の心身リフレッシュ・育児 life skill 向上のプログラム「すきっぷママ」を開発し、予防的育児支援プログラムの介入効果を明らかにする。

【方法】看護介入研究。対象はプログラムに参加した母親 80 名(10G)で介入効果評価に PS-SF, WHO-QOL, 家族機能(FAI)の尺度を用いた。大学の倫理審査承認を受けた。

【結果】母親の平均年齢は 38 歳(SD±4.4)、71%は介入前に心身の不調を訴えていた。子どもは平均 5.5 歳(17ヶ月～12歳)、男児が 82%を占めた。PS-SF と WHO-QOL と家族機能との間には関連性がみられ(p<0.05)、介入前後で PS-SF は低下し、WHO-QOL と FAI は上昇していた。PS-SF の親自身に関するストレスは有意に低下し、WHO-QOL 全体、心理的、環境領域では有意に上昇した。FAI(5側面)の家族内コミュニケーション、家族内ルール、家族の評価の3側面は有意に上昇した(p<0.05)。

【考察】母親は心身に不調を感じ、社会から孤立しやすく癒しとリフレッシュ、育児スキルアップとを求めている。介入後は予測通り育児ストレス低下と QOL, 家族機能は向上し、支援効果をみられた。しかし、リフレクションの結果として一時的に QOL 低下することもあり、継続的支援、環境を含めた特性把握、早期の予防的な支援の重要性が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

Aim The purpose of this study was to examine the effects, mostly in QOL, of the Skip-Mamma program for mothers of children with ASD.

Methods An intervention study was conducted. The Skip-Mamma program was designed to promote a mother's life-skills for childrearing and to refresh and heal her mind and body. Interventional effects were assessed using World Health Organization QOL-26 (QOL-26), Parenting Stress Index-Short Form (PSI-SF) and Family Assessment Inventory (FAI) at 3 time points during the program as follows: before the first session, at 3 months into the program, and after the program ended (6 months). Data were analysed by the Wilcoxon test using SPSS 13.0J software. The participants in this survey include 25 mothers {39.4±4.3 (Mean±SD) years old} from 5 session groups who completed the program and of 27 children {83.2±33.6, 42-150 (Mean±SD, Range) months old} with ASD. There is a mild positive transition for every questionnaire, but there is no significant change (Table 1).

Result There were classified into the QOL rising pattern group, descending pattern group or V-shaped pattern group. We found that the participants' increased understanding of themselves and their family is an important aspect, and the V-shaped pattern was expected to come out beforehand to be taken. For participants who completed the program, we held regular follow-up sessions to determine whether their QOL remained the same or showed improvement. We call this follow-up session a "Skip-Salon", and this salon started from request and hope by participants who complete the Skip-Mamma program.

Conclusion The results suggest that the Skip-Mamma program is useful to the well-being of many mothers', and also pay attention to an individual's and family background as it is important for providing better care.

交付決定額

	(金額単位：円)		
	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：発達障がい、家族機能、QOL、育児支援、対話

1. 研究開始当初の背景

発達障害の代表的なものには、[知的障害](#) (MR)、[広汎性発達障害 \(自閉症\)](#)、[高機能広汎性発達障害 \(アスペルガー症候群・高機能自閉症\)](#)、[注意欠陥多動性障害 \(ADHD\)](#)、[学習障害](#) (LD) などがある。近年は自閉症の中核症状の濃淡や重複性などのバリエーションの幅が広いことから、Autism Spectrum Disorder といわれることが多い。

2005年の発達障害者支援法の施行により、従来は発達障害と認定されていなかった「知的障害を伴わない広汎性発達障害」や「学習障害」が発達障害として認定され、支援の対象として明記されたことは画期的であった(杉山, 2007)とされる。広汎性発達障害(PDD)の子ども研究は数少なく、実際に支援を行う介入研究や支援効果の評価をデータに基づいて行っている研究は殆どみられない。発達障害をもつ子どもの家族全体に及ぼす影響や支援効果に関する研究知見は、現

段階では十分明らかにされていない。

平成18-20年度の基盤研究(C)広汎性発達障害の幼児をもつ家族の家族プロセスとQOLに関する研究(課題番号18592353)の第1段階の調査により子どもの自閉症の行動特徴、母親の育児ストレス、家族機能、母親のQOLに関する以下の知見を見出した。(1)育児ストレス尺度PSI-SFの“孤立・親としての自信のなさ”は、家族機能(FAI)の5側面すべてと有意な負の相関($r_s = -.43 \sim -.24$)がある。予防的育児支援プログラムに参加し、母親の孤立を解消すること、育児ライフスキルを促進し“親としての自信”を高めることは、家族機能促進および育児ストレスの軽減につながり虐待防止に寄与する可能性がある。(2)子どもの自閉症の行動特徴と“子どもの好ましい反応の少なさ”とは有意な正相関($r = .42 \sim .27$)があり、“母親の働きかけに対して子どもからの好ましい反応が乏しい”ため母親は育児の満足感が得られず、育てに

くさを日々感じ、結果的に母子相互作用の成立をますます困難にしていた。母親自身の心身のリフレッシュに介入することが母親のQOLを向上させ、適切な子どもの養育環境の提供につながることを期待される。(3)PSI-SFの“育児をめぐる夫との関係”と家族機能の全5側面とは有意な強い負の関連($r_s = -.68 \sim -.37$)を認め、また、母親のQOL(QOL-26)の4側面すべてとも有意な負の関連($r_s = -.39 \sim -.24$)がみられた。父親とのコミュニケーションの状況は母親の育児ストレスや家族機能に大きく関連していることを示唆していた。strength based approachの重視を前提とし、母親の癒しや心身リフレッシュを主目的とした予防的育児支援プログラムを開発し、小グループ制・6回シリーズで試験的介入研究に着手した。

研究の意義 発達障害の子どもを育てる母親の支援としながら、実際には母親を主として発達障害の子どもの資源あるいは背景として捉え、親を教育・指導するスタンスの介入がほとんどである。家族を看護の主対象として、母親へのケア(母親自身の癒しやストレス緩和、育児ライフスキルを促進する母親への支援)を主な目的とした研究は非常に少ない。長期にわたって悩みながら育児を担う母親自身が“ケアを受けた実感”は、現状では非常に乏しい。母親ケアに焦点をあてた予防的育児支援は、母親のQOL向上、家族機能の促進、発達障害児に適切な養育環境を提供することにつながり、結果として子どもの虐待防止に寄与する可能性が高い。

2. 研究の目的

予防的育児支援プログラム「すきっぷ・ママクラス」について、地域の保健師・育児支援事業スタッフを対象に研修を行い、プログラムに基づく予防的育児支援を展開し、介入効果のエビデンスを確保する。

3. 研究の方法

研究デザイン：プログラムによる介入研究

対象：①発達障がい児(幼児～思春期)の子どもを養育する母親でプログラム参加者

②プログラム講習会に参加した育児支援者

手続きと方法：①「すきっぷ・ママクラス」プログラムの開発と標準テキスト作成 ②キックオフ研修の開催 ③プログラム講習会の開催 ④プログラムの実施(継続) ⑤修了生対象のすきっぷ・サロン」の定期開催 ⑥プログラムに基づく予防的育児支援の介入効果の検証⑦「養育期の親のQOL自己評価尺度(試案)」の開発

4. 研究成果

1)「すきっぷ・ママクラス」キックオフ研修の開催：介入研究の参加希望者を募る目的で、東海地方を中心にE-mailにて募集を行った。キックオフ研修会は、平成21年11月19日(木)大幸キャンパス保健学科東館大講義室で開催し、参加者は64名であった。事後アンケート(回収数36部；回収率56%)の結果によると、参加者の背景は子育て支援者や保健医療従事者が多かった。参加動機は、「仕事上の関心」が最も多く、次いで「プログラムへの関心」「講演テーマに関心」の順であった。研修会の内容には60%以上がとても参考になったと回答していた。地域でのこのようなプログラムの必要性や今後の情報提供希望の質問についても、70%以上が肯定的回答であった。アンケート結果はHP上(<http://www.jsnhc.org/smc>)で公開した。

2)「すきっぷ・ママクラス」プログラム講習会の開催：平成22年度および平成23年度、保健医療職や地域の子育て支援者を対象にプログラム講習会を各1クール実施した。平成22年度は、1クール3回構成で(第1回10月2日、第2回10月30日、第3回11月27日)行った。参加者は10～12名で、地域の保健師、子育て支援者、発達支援センター職員、発達障害の自助グループスタッフ等で

あった。平成 23 年度は、名古屋市子育て支援事業“のびのびサポート西支部”とタイアップする形で実施した。

3) 「すきっぷ・ママクラス」プログラムの実施状況：①プログラム開催実績と参加者

すきっぷ・ママクラス（原則 1 クール 6 回シリーズ）は、保健学科行動観察室での開催を中心として、小グループ制（6～15 名）で継続的に開催し、平成 23 年 8 月までには 11 期生を輩出した。参加登録人数は延べ 96 名（複数回参加者を含む）、児の年齢は 2 歳～13 歳と就学時期の幼児および学童をもつ母親が多かった。これは、乳幼児については比較的健診後のフォローを含めて保健センターを中心とした支援体制が整いつつあるのに比べて、学童期の発達障害の子どもを養育する母親への支援の場が非常に少ないことを示していた。通園の送迎の問題から「近くで開催してほしい」との要請があり、4 グループについては全 6 回シリーズを全 4 回に凝縮し、スタッフが S 市内へ出向いて出張開催を実施した。母親たちは参加ニーズがあっても、時間や距離の制約などの背景要因によって参加へのバリアが大きいことを示唆した。別の特徴として、うつ病での通院歴、心療科に通院中、内服中などメンタルヘルスの問題を抱えている母親が複数存在し、自らが発達障害を抱える当事者の母親たちも複数がプログラムに参加していた。参加者の反応では、とくに好評なセッションは、『カードを用いた「家族の価値」に関するナラティブの共有』『仲間を勇気づけるレッスン』であった。バランスボールを用いた体のリフレッシュやアロマを用いた自己マッサージによる癒しの効果については、母親たちの主観的な評価が高く、アンケートの自由記載欄や感想コメントが多かった。さらに、予想外の参加者の反応から当初の計画外の実施であるが、学童

期の母親は相談の場所が非常に限られていること先輩母親からの情報が役立つとの実感から、参加者より「継続できる場が欲しい」との要望が強く、修了生を対象とした「すきっぷ・サロン」を名古屋大学医学部保健学科内に開設することとなった。4) プログラムに基づく予防的育児支援の介入効果：プログラムの目標（ゴール）は、①PDD の幼児を育てる母親の育児ストレス（PSI-SF）の低下する②家族の子どもの障害・行動に対する認識変化と癒しスキルの獲得・促進される③母親自身が自分の家族の強みの気づきと家族評価が向上する④家族のコミュニケーションが促進し、家族機能が向上する⑤母親の主観的健康状態が維持・改善することである。プログラムの概要に示したように、介入効果の測定は、介入前・介入 3 カ月後・修了後の 3 回実施した。調査内容は、①基本的属性

▶介入による得点の変化

すきっぷ・ママクラスプログラムにおける 3 時点の尺度得点

N=27, Mean ± SD

	プログラム実施前	開始 3 か月後	修了後(6か月後)	p
QOL-26	79.6±8.1	77.6±9.6	81.4±10.5	ns
PSI-SF	51.8±8.6	50.6±8.4	49.2±7.0	ns
FAI	115.8±13.5	116.0±14.6	117.8±20.0	ns

Wilcoxon test
QOL-26: WHO QOL-26
PSI-SF: Parenting Stress Index-Short Form
FAI: Family Assessment Inventory

②自閉症の行動特徴に関する質問紙③家族機能尺度（FAI）④育児ストレス（PSI-SF）⑤WHO-QOL26 で、データ解析は SPSS 17.0J で行った。短縮バージョン参加者を除き 6 回版に参加し、3 回の質問紙すべてに回答の得られた母親 25 名（平均年齢 39.4±4.3 (Mean ± SD), 子ども 27 名の平均年齢 83.2±33.6, 42-150 (Mean ± SD, Range) か月) であった。介入効果として、母親の QOL (QOL-26), 母親のストレス (PSI-SF) および家族機能 (FAI) の尺度得点の変化を確認した (表参照)。対象全体の平均得点の変化では介入後徐々

にストレス得点は低下し、QOL および家族機能は上昇していたが、介入前後の有意差はみとめなかった。しかし、対象者それぞれの変化のパターンに注目すると、変化は一様ではなく概ね3つのパターンに類型化できた。第1パターンは「上昇タイプ」で過半数(15名/27名)を占めメジャータイプであった。その他、下降タイプ、V字タイプ(各6名)であった。これら3タイプが混在するため、全体の平均点では個々の変化が相殺され有意差が得られなかったと考える。タイプ別要因分析では、低下タイプに①プログラム期間中に卒業・入学時期をはさんだ②参加者の体調不良③家族メンバーの状態が悪い or 不安定などの特徴がみとめられ、これらの外的要因に大きく影響を受けた可能性がある。最終従属変数と想定した生活の質は QOL-26 で測定したが、汎用性のある質問紙である反面、“育児中の親の生活の質”を評価する場合は特異性に欠け、十分な感度を持たなかった可能性が高く、“育児中の親の生活の質”を特異的に評価できる尺度開発の必要性が示唆された。

さらに、4回版参加者を含め全体で介入前後を比較し、介入効果検証した。平均年齢は38歳(SD±4.4)で、57名(71%)の母親は介入前に心身の不調を訴えていた。子どもの平均年齢は、5.5歳(17ヶ月~12歳)、54名(66%)がASDの診断を受けており、男児は67名で82%を占めていた。各尺度の信頼係数信頼性係数は、PS-SF(19項目)0.78~0.79、WHO-QOL(26項目)0.90~0.91、FAI(30項目)0.91~0.94と安定した値を示した。介入前後ともに、PS-SFとWHO-QOLと家族機能との間には、関連性がみられた($p < 0.05$)。介入前後で、PS-SFは低下し、WHO-QOLとFAIは、高くなり、中でもPS-SF総得点は、親自身に関するストレスでは、有意に低下がみられた。

WHO-QOL全体、心理的領域、環境領域では有意に上昇していた。FAIについても、家族内コミュニケーション、家族内ルール、家族の評価の3側面は、有意に高くなっており($p < 0.05$)、一定の介入効果が検証できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

浅野みどり, 古澤亜矢子, 大橋幸美, 吉田久美子, 門間晶子, 山本真実: 自閉症スペクトラム障害の幼児をもつ母親の育児ストレス, 子どもの行動特徴, 家族機能, QOLの現状とその関連. 家族看護学研究16(3):157-168, 2011(査読有)

山本真実・浅野みどり: 自閉症スペクトラム障害の子どもと母親のコミュニケーションに関する国内文献レビュー. 家族看護学研究17(2):75-85, 2012(査読有)

山本真実, 門間晶子, 浅野みどり: 紙飛行機がつなぐ物語の行方. N:ナラティブとケア第3号:26-30, 2012(査読有)

[学会発表](計11件)(すべて査読有)

Kazuteru Niinomi, Midori Asano, Kumiko Yoshida, Akiko Kadoma, Yukimi Ohashi, Ayako Furusawa, Mami Yamamoto, Akiko Mori(2011): Interventional Effect of Skip-Mamma Program for Mothers of Children with autistic spectrum disorder, 10th International Family Nursing Conference, Kyoto.

大橋幸美, 浅野みどり, 吉田久美子, 新家一輝, 門間晶子, 古澤亜矢子, 山本真実, 森阿紀子, 山口知香枝(2011): 養育期の親のQOL自己評価尺度の開発—因子的妥当性の検討—, 日本看護研究学会雑誌, 34(3), p. 181(第37回学術集会, 横浜)

Midori Asano, Ayako Furusawa, Yukimi Ohashi, Akiko Kadoma, Kumiko Yoshida, Naoko Yamakita(2009): A Pilot Study: Intervention Outcomes from the Skip-mamma Program for Mothers of Children with Autistic Spectrum Disorders 12th East Asian Forum of Nursing Scholars,

Tokyo.

古澤亜矢子, 浅野みどり, 吉田久美子, 門間晶子, 大橋幸美, 山北奈央子(2009): 自閉症の子どもを養育する家族への育児ライフスキル促進プログラムを用いた看護支援の効果、日本小児看護学会 第19回学術集会, 講演集 p 157, 北海道.

ASANO Midori, FURUZAWA Ayako,

KADOMA Akiko, OHASHI Yukimi,

YAMAKITA Naoko, YAMAMOTO Mami,

YOSHIDA Kumiko(2009) : Special

Feature on Family Values of mothers who have Child with Autism Spectrum

Disorders in Japan , 9th International

FamilyNursing Conference, 154, Iceland.

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.jsnhc.org/smc>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅野 みどり (ASANO MIDORI)

名古屋大学・医学部(保健学科)・教授

研究者番号 : 30257604

(2) 研究分担者

門間 晶子 (KADOMA AKIKO)

名古屋市立大学・看護学部・准教授

研究者番号 : 20224561

吉田 久美子 (YOSHIDA KUMIKO)

名古屋大学・医学部(保健学科)・准教授

研究者番号 : 40952388

新家 一輝 (KAZUTERU NIINOMI)

名古屋大学・医学部(保健学科)・助教

研究者番号 : 90547564

(3) 連携研究者

古澤 亜矢子 (FURUZAWA AYAKO)

山本 真実 (YAMAMOTO MAMI)

大橋 幸美 (OHASHI YUKIMI)

名古屋大学大学院医学系研究科博士課程後期課程